



# 2022年度第11回全国キャラバン研修会報告

## オンラインで移動動作技術が楽しく伝わる秘訣 が開催されました。研修内容の一部を紹介します！

2023年2月23日(木・祝)  
10:00~12:00 Zoomオンライン研修会

[移動動作班] 西田直子、水戸優子、  
若村智子、平田美和、富田川智志、  
國澤尚子、首藤英里香

### ◆研修のねらい

移動動作は、そもそも生活に密着した技術です。今回は、病院などのベッドを使用せずに、移動動作技術の原理を学びます。

本研修では、「オンラインだからできること」を、積極的に活用し、受講される方がエビデンスに基づく移動技術の技を学べる機会を提供することを目的にしています。

今回の取り組みは、移動技術のエビデンスの普及に直接関係する臨床家だけでなく、看護教育に関わる方も対象としています。

今回の研修会で扱う動作は、わたしたちもふだんよく使う動作です。その自然な動きを理解することは、介助する側の動きだけでなく、適切に物品配置をする意味にもつながります。今までに気づいていなかった発見が、きっと見つかります。

さらに、2022年に日本看護技術学会に依頼されたストレッチャーへの移乗中に転落した過失質傷害事件を資料に転落事故における要因と改善点について解説します。

この研修会を通して、少しずつでも、人々の考え方が変わることを願っています。

### ◆内容

- ①再考！最高！車いす移乗の基本
- ②滑ってみよう！
- ③こんなに楽なの！？スライディングシート移動
- ④危険！ストレッチャー移乗
- ⑤質疑応答

一般社団法人日本看護技術学会 技術研究成果検討委員会 主催  
2022年度第11回全国キャラバン研修会

Zoom  
オンライン  
研修会

## ジェネラルナースの 技術力を高めよう

オンラインで移動動作技術が楽しく伝わる秘訣

コロナ禍のオンラインでの看護技術の習得は、教育する側が看護技術の本質的要素を厳選した上でエビデンスに基づく技術教育を行う必要があります。そのためには、教える側が移動動作のメカニズムを体感・体験して、安全安楽性の意義を実感していることが大切です。本研修会では、オンラインで移動動作技術が楽しく伝わる秘訣をお伝えします！

研修内容：①再考！最高！車いす移乗の基本  
②滑ってみよう！  
③こんなに楽なの！？スライディングシート移動  
④危険！ストレッチャー移乗  
⑤質疑応答

日時 2023年2月23日(木・祝)  
10:00~12:00

会場 Zoomオンライン研修  
(URLはお申込み後にご連絡いたします)

受講料 会員：無料/非会員：1,000円  
※研修会受講(2時間)を証明する修了証を発行いたします

講師 技術研究成果検討委員会 移動動作評価班  
西田直子(京都先端科学大学)  
國澤尚子(埼玉医科大学)  
若村智子(京都大学)  
水戸優子(神奈川県立保健福祉大学)  
平田美和(筑波大学)  
富田川智志(日本福祉大学)  
首藤英里香(札幌保健医療大学)

ご用意いただきたい物:  
段ボール、30cm以上のこみ袋  
(いろいろな厚さだとなおよい)  
椅子2つ(キャスターなしのもの)

※準備できなくても参加できます

お申込み・お問い合わせ：本会公式HP (<https://www.jnsas.jp/>)  
よりお申込みください。定員(30名)になり次第締め切ります。(2023年2月20日18時締切)  
一般社団法人 日本看護技術学会事務局(株) 春世社内  
E-mail: jnsas@shunkoshika.com 電話: 03-5291-6281

①深く座りましょう

やってみよう!

②浅く座り直してみよう

③立ち上がってみよう

体は、どう動く?

まず浅く腰掛けてから  
奥に座りましょう

椅子の上にシートを!

- ①ビニール袋2枚で
- ②ビニール2枚重ねで
- ③段ボール片を
- ④ビニール袋2枚の間に段ボールを挟む
- ⑤各種ビニールシートで

弾性ストッキング(ハイソックス)  
はいてみましょう。

シートを活用してみます!

今、使ったもの OK!

椅子にすわっても、床にすわっても  
やりやすい方法で!

# プログラム

時刻	内容	方法	担当者
13:00	・オリエンテーション、この資料の活用について 録画のアナウンス ・技術研究成果検討委員会の紹介		水戸 西田
13:03	移動動作評価班のメンバー紹介／本日の予定		若村・國澤
13:07	①人の自然な身体の動きを確認してみよう	演習 解説	平田
13:35	②滑りの基本 ～原理・原則の理解と応用～ ～スライディングシートの種類とそれぞれの特徴～	演習 解説	首藤 富田川
14:05	③車椅子移乗 ～当事者からみた車椅子移乗方法～ ～介助者からみた移乗介助のポイント～	演習 解説	西田 水戸
14:40	質疑応答		國澤・若村
14:55	閉会挨拶、アンケート、記念撮影のお願い		西田

参加人数：68名 \* 申込91名（会員44名、非会員47名）

今回のキャラバン研修会では、「受講ノート」を事前にPDFでお送りし、演習に向けての準備として身近な必要物品を準備していただき演習と講義を行いました。

実際に体験していただきながら、その感想を共有し、エビデンスの内容を説明しました。体験の感想にも積極的に参加していただき、動作一つ人の自然な動きと当事者の立場になることを共有できた時間でした。

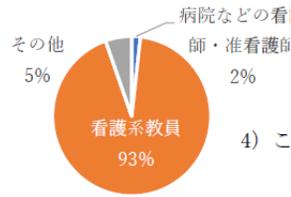
## 参加者で記念撮影しました



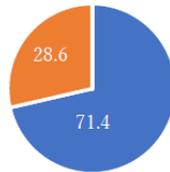
# 参加者アンケート集計結果

## 2. アンケートの結果（一部抜粋）[回答 56, 回答率 82.4%]

- 1) あなたは日本看護技術学会の会員ですか 2) ご所属をお選びください

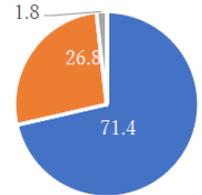


- 3) オンラインで行う移動動作技術の研修会は有益だと思いましたか

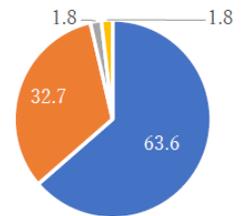


- とても思った
- まあまあ思った
- あまり思わなかった
- 思わなかった

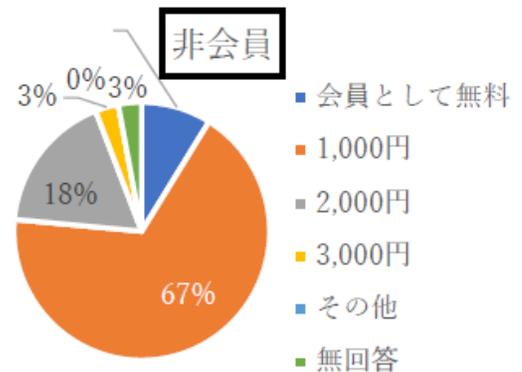
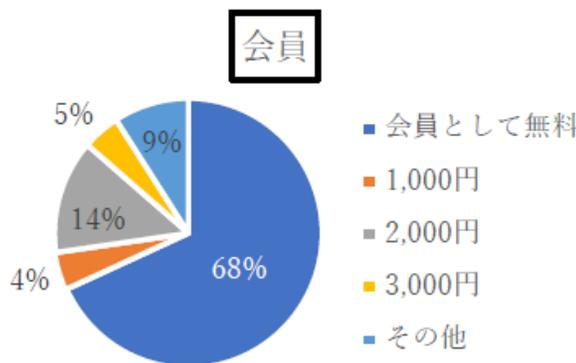
- 4) この研修を通して滑りの用具を使ってみようと思いましたか



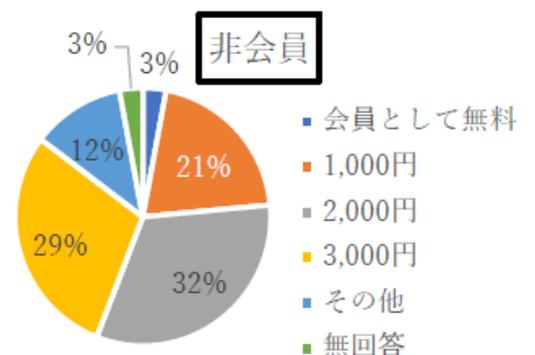
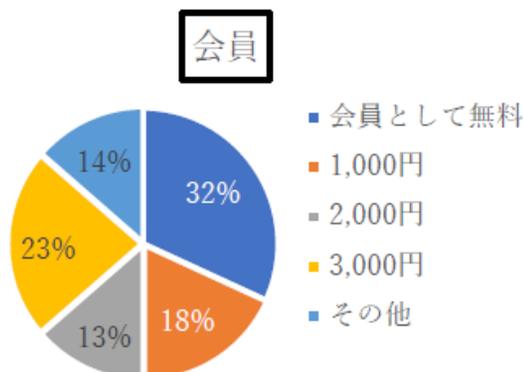
- 5) 「危険！ストレッチャー移乗」の解説は有益だと思いましたか



- 6) 今回のようなオンライン研修会（2時間）の参加費はいくらが妥当だと思いますか？



- 7) 技術演習を含む対面研修会（半日～1日）の参加費はいくらが妥当だと思いますか？



# 参加者アンケート：今回の研修会で印象に残ったこと

- ・ノーリフティングの技術や道具の紹介だけでなく、それを使用した時の転落事故の事例の詳細、道具を使用する際の注意点、対策を含めて紹介してもらえたのでより実践的な講義であったと思います。(6件)
- ・ストッパーを止めずに起きている事故の多さに衝撃を受けました。また、ストレッチャーを使用する場面は病院だけに限らない事を知りました。普段から当たり前に行っている動作について、疑問に思う気持ちを忘れていたので改めて見直す必要があると思いました。安全と自立についても再考したいと思います。(4件)
- ・車いす移乗で、患者の足の間に介助者の足を入れて介助することを当たり前にやっていた。その根拠もあいまいだったので、正しい知識を得ることができました。(5件)
- ・すべてです！！実践可能な具体例を教えて頂き、たいへん参考になりました。特に平田先生の、思考し続ける看護の世界へ学生を誘う講義の動機付けとなる授業の導入と方略は共感を覚えるとともに、新たな気づきを頂きました。そして、患者の足の間に介助者の足を入れるのは適切か。人の自然な身体の動きを活用しているか。この2つの投げかけは、臨床の場でこそ常に意識すべきであると感じ入ります。ボディメカニクス原則とともに、学生のうちから基本的な看護技術として、日常生活動作をたすける援助の共通する根幹として、このような体験型授業を大切にしていこうと思います。滑り止めシートも活用します！(3件)
- ・残存機能を十分にアセスメントした上で、その患者さんにあった移乗方法を考えることについては、当たり前のことであるが、とても重要なことであると改めて気づかされました。(5件)
- ・なぜ使用するといいのか、研究の成果をもとに説明を受けることで理解が深まった点。(2件)
- ・患者さんのADLの拡大を考えながらも、実は患者さんの自立を妨げているのではないか・・・その内容を、移動の技術講義・演習でもっと学生と考えていかななくてはいけないと思いました。また、あらためて一つ一つの技術の根拠の振り返りができる内容でした。(特に摩擦の原理)今後の講義、演習、実習で大いに役立てたいと考えています。学生たちが考えられる授業構築の参考にさせていただきます。(2件)
- ・資料が送付されてこなかったため、演習の準備など焦りました。動画と解説はわかりやすかったです。
- ・臨床現場で行われていることとのギャップを感じました。
- ・全介助の時から対象の自立を支援することの重要性を再認識しました。
- ・スライディングシートやビニール袋の活用(3件)
- ・シートの種類、使用方法・移乗動作における事故・足を入れるかどうかを考える、教育の方法
- ・実習病院でスライディングシートを使用している場面は、ほとんど見ません。スライディングシートがどのくらい普及しているか知りたいと思いました。
- ・摩擦の利用で双方の介助負担が減ること、介助は力がそんなに必要ないと理解できれば、対象者の離床や自立の支援がもっとしやすくなると感じた。
- ・弾性ストッキングを履くときは使っていたが脱ぐときは使っていなかったので参考になりました
- ・事前に準備物品、課題、ノートを配布していただいたことがとてもよかったです。事前体験、当日の理解のために、意図・方法の解説、課題が難しいものは動画もあるとよかったですと思います
- ・患者さんのもつ機能の評価は正しくできていない事で、力を奪ってしまうと感じました。患者さんの持つ力を利用できれば、看護者にとっても楽にできるという考え方に気づきました。
- ・演習のヒントをたくさんいただいたことです。起き上がり動作をみて、移動動作ができるかアセスメントするという点は、その通りだと思いました。中足法は全介助の方法であるとはっきり教えていただき、とてもすっきりしました。ダンボールを使用したスライディングシートは、在宅などでも使用できると思いました。(2件)
- ・移乗介助を行うために、人間の自然な動きを意識して行うことの大切さを学びました。
- ・私は基礎看護担当ではないのですが、実習指導の場面で思うところがあって参加しました。基本的な看護技術こそ、方法だけでなく臨床判断能力を身に着ける教授方略が必要なんだと感じました。病院で足首に傷がついている人を見るたび、心が痛くなります。それは教育の責任が大きいということも実感しました。
- ・いろんな体験を通して、摩擦率について実感できたのは楽しかったですし、学生にも体験してもらいたいと思いました。
- ・ノーリフトという言葉は普及していると思うのですが、臨床現場をみると腕力に頼ったトランスファーをしています。また、動ける患者さんもそうでない患者さんも同じ方法で移乗している場面を見ると、学校で勉強したアセスメントって何だったんだろうか・・・と自問自答する日々でした。こういった技術もまた変化していくと思われませんが、それについていける看護師を育てることが必要だな、と思いました。
- ・ストレッチャーからの転落はとてもショックでした。ベッドとストレッチャーがくっついたら、双方が自動でロックできるなどの装置が開発できないものかと・・・思ったりもしました。
- ・どの先生のお話もとても楽しかったです。ありがとうございました。
- ・対象の動作のアセスメントの重要さとそこからその人に合わせた方法を選択する大切さを痛感しました。
- ・質疑応答の中で、「教科書に掲載されている方法と異なること」についての質問がありました。以前から、移動動作技術以外でも同様であることから、日頃から授業者としては頭が痛いところです。
- ・質問に対するご返答の部分で離席せねばならず、どのようにご返答なさったのかをお聞きできませんでした。つきましては、この質問へのご返答を知りたく思っております。知る術はございますでしょうか。
- ・便利である用具を用いることによって危険性もあり、使用方法、安全確保など熟知し使用しないといけないと思った。
- ・一番は坐位時の摩擦力の違いを体験できたことです。比較を学生にも体験させることで用具使用の必要性を実感できると思いました。
- ・動画を入れての解説をしていただけたので、イメージすることができました。また、本テーマに真剣に向き合い、安全・安心な看護につながる看護実践への意識を共有できました。
- ・車椅子移乗の際の、足の置き方の内容で、原理原則を抑えた上での援助の工夫。と、対象の観察から援助方法を考える指導の必要性が大切と改めて認識しました。
- ・自分の授業を振り返るきっかけになりました。ありがとうございました。
- ・首藤先生、西田先生の動画がコンパクトで分かりやすかったです。